

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

道の駅つるたを核とした地域資源活用計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

青森県北津軽郡鶴田町

### 3 地域再生計画の区域

青森県北津軽郡鶴田町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

青森県北津軽郡鶴田町は津軽平野のほぼ中央にあり、農業を基幹産業としてきた。基幹産業は米とりんごであるが、昭和45年頃からスチューベンぶどうに転作する農家が増え、現在の生産量は1,161トンにもおよび、スチューベン品種では作付面積・生産量ともに日本一となっている。

産業振興の施策としては、他の地域との差別化を図るため、この特産品のスチューベンぶどうに特化した取組を、農産物直売所や周辺観光施設の情報拠点である道の駅つるたを核として実施してきた。

道の駅つるたの独自の取組により、販売額及び利用者数を伸ばしているが、建設後14年が経過し、施設的には飽和状態で農産物直売所・物販コーナーが手狭であることや、スチューベン6次産業化の拠点としての機能不足、観光資源を有するが情報拠点としての機能不足が課題となっている。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

当該地域の最大の資源である道の駅つるたを活用して、多様な主体と連携しながら新たなスチューベンぶどうブランド化推進事業及び地域資源活用事業の立ち上げによるスチューベンぶどう加工品の付加価値向上及び販路開拓事業、観光プロモーション事業等を一体的なプロジェクトとして実施することで、農業及び観光産業の魅力を情報発信し、地域に魅力ある雇用を創出し、町の人口減少抑制につなげるものである。

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 増加分 (1年目)	平成29年度 増加分 (2年目)	平成30年度 増加分 (3年目)
道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」施設全体の販売額(千円)	434,033	0	5,000	15,000
鶴田産原材料購入数量(kg)	55,152	0	1,500	4,000
新商品開発数(個)	0	0	2	3
道の駅つるた「地域特産物直売所」の利用者数(人)	373,213	0	0	10,500
道の駅つるた「地域特産物直売所」の販売額(千円)	132,631	0	0	5,000
観光客入込数(人)	441,811	0	0	12,500

	平成31年度 増加分 (4年目)	平成32年度 増加分 (5年目)	平成33年度 増加分 (6年目)	KPI増加分の 累計
道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」施設全体の販売額(千円)	30,000	45,000	5,000	100,000
鶴田産原材料購入数量(kg)	7,000	10,000	1,000	23,500
新商品開発数(個)	5	5	5	20
道の駅つるた「地域特産物直売所」の利用者数(人)	15,000	19,000	21,500	66,000
道の駅つるた「地域特産物直売所」の販売額(千円)	5,000	10,000	10,000	30,000

観光客入込数（人）	17,500	22,500	25,500	78,000
-----------	--------	--------	--------	--------

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

本事業は、道の駅つるたの一部を増築し、CAS 冷凍設備導入やイトインコーナー設置による機能強化を図り、スチューベンぶどう等の特産品・加工品の新商品開発事業及び農産物販路拡大事業を実施する。さらに、道の駅つるたの敷地内に地域特産物直売所を増築し、農産物直売所及び多目的イベントホール、観光案内所設置による機能強化を図り、観光ガイド設置事業、観光客二次交通助成事業等を実施する。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### (1) 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

##### ① 事業主体

青森県北津軽郡鶴田町

##### ② 事業の名称：道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」を核としたスチューベンぶどうブランド化推進事業

##### ③ 事業の内容

本事業は、CAS 冷凍設備導入によるスチューベン販売額増及びイトインコーナー増築による「鶴の里あるじゃ」施設全体の販売額増を目的に、鶴田町地域農産物等活用型総合交流促進施設では、一部を増築し、増築部分に CAS 冷凍及び冷凍庫、冷蔵庫、個別包装機器を整備し、現在の製造機器ラインから CAS 冷凍、個別包装までを一貫してできる施設として整備し、さらにイトインコーナーも増築する。これらを整備することで、スチューベン大福等のお土産品の賞味期限が延長することによる廃棄ロスの減少や遠方のお土産品としての対応、CAS 冷凍を活用した生果新商品の開発等が可能になる。

また、鶴田町大豆・米加工施設では、入口側を増築し、イトインコーナーの設置と加工室の増築、洋菓子系製造の機械を整備することにより、購入した物をその場で飲食できるようになり、さらには地元産果実を使った新商品を開発し提供できる体制ができる。

この結果、スチューベンぶどうによる当町の知名度向上につながり、施

設全体及び当町への集客効果に寄与するものである。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」の指定管理者である（株）鶴の里振興公社は、現在でも町からの繰り入れは無く、自立し利益を上げている。そこで、本事業でCAS冷凍機器を導入することにより、スチューベン生果やスチューベン大福などの加工品の保存期限が延び、販売面が強化されることで売上を伸ばし、さらに利益を上げていく。

【官民協働】

道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」の指定管理者である（株）鶴の里振興公社は、生産者、農協と連携し、販売とスチューベンぶどうを使ったオリジナル加工品の製造・開発に取り組んでいく。行政は、県外でのトップセールス等による知名度向上や販路拡大、スチューベン生産者の労働力不足を解消し、生産基盤の強化を地方創生拠点整備交付金を活用して取り組んでいく。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 増加分 (1年目)	平成29年度 増加分 (2年目)	平成30年度 増加分 (3年目)
道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」施設全体の販売額（千円）	434,033	0	5,000	15,000
鶴田産原材料購入数量（kg）	55,152	0	1,500	4,000
新商品開発数（個）	0	0	2	3

	平成31年度 増加分 (4年目)	平成32年度 増加分 (5年目)	平成33年度 増加分 (6年目)	KPI増加分の累計
道の駅つるた「鶴の	30,000	45,000	5,000	100,000

里あるじゃ」施設全体の販売額（千円）				
鶴田産原材料購入数量（kg）	7,000	10,000	1,000	23,500
新商品開発数（個）	5	5	5	20

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、3月末時点の KPI の達成状況を町企画観光課が取りまとめる。

【外部組織の参画者】

鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 151,554千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5ヵ年度）

(2) 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

青森県北津軽郡鶴田町

② 事業の名称：道の駅つるたを核とした地域資源活用事業

③ 事業の内容

本事業は、道の駅つるたの敷地内に農業者の所得向上を目的とした農産物直売所を増築し、さらに道の駅つるたの利用者及び雇用機会の向上を目的とした多目的に利用できるイベントホール及び観光案内所を併設する。

農産物直売所は、現在の3倍の面積を確保し、既存施設の空いたスペースの利活用は、物販スペースとして拡張し、通路は車いすが通れるようにバリアフリー化し機能改善を図る。

併設するイベントホールは、大型バスの団体客の受入れ、これまでも実

施してきた全国の道の駅との交流イベントの実施、農業者で構成する J A 農産物直売コーナー友の会会員 110 名の研修場、災害時の避難場所として利活用できるように整備する。

観光案内所は、本町の観光資源及び J R 五能線沿線連絡協議会や西北五観光物産協議会などの会員である本町の地理的利点を活かした津軽半島の観光窓口の情報発信拠点として機能するように整備する。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

道の駅つるたの指定管理者である（株）鶴の里振興公社は、現在でも町からの繰り入れは無く、自立し利益を上げている。そこで、本事業で農産物直売所を増築することにより、（株）鶴の里振興公社は施設全体の販売面が強化されたことでさらに利益を上げ、また、施設を利用する農業者で構成される J A 農産物直売コーナー友の会の所得向上を目指す。さらに、多目的イベントホールの利活用により雇用拡大を図る。

##### 【官民協働】

町は道の駅つるた敷地内に農産物直売所及び多目的イベントホールを整備し、農業者で構成される J A 農産物直売コーナー友の会は地元農産物の生産及び加工、農協は運営の協力、（株）鶴の里振興公社は施設を運営しながら地元農産物及び加工品の製造・販売と全国の交流のある道の駅とのイベントを実施する。観光協会は町と連携しながら観光案内所を運営し、道の駅を核とした観光資源の情報発信の充実を図り、観光地としての知名度向上に取り組んでいく。

##### 【政策間連携】

農産物直売所を増築することで農業者の所得向上を図る。多目的イベントホール併設及び観光案内所を設置し、大型バスの団体客の受入、これまでも実施してきた全国の道の駅との交流イベントの実施、西北五地域の観光周遊ルートの案内窓口として機能することで道の駅つるたの利用者増を図り、これに伴う専任職員の配置といった雇用機会の向上も図る。この結果、本町の基幹産業である農業の魅力、観光産業の魅力を発信していくことで、本町の生活基盤となるしごとづくり及び担い手確保に寄与するものである。

##### 【地域間連携】

道の駅つるたは、本町特産のスチューベンぶどうと、友好都市の鹿児島県さつま町の焼酎とのお互いの地場産品を融合し、新たな連携産品の開発販売により、地域間連携産品のブランド化につなげる。また、これまでも交流のある全国 16 箇所の道の駅では、特産のりんごやスチューベン、青森県産品の販売をしていただき、代わりに道の駅つるたでは、他県の道の駅交流商品として千葉県南房総市の天然ひじきや沖縄県名護市のさんぴん茶など県外の特徴ある産品を販売することでお互いの販売力の強化及び知名度向上を図っている。

### ⑤ 重要業績評価指標 (KPI) 及び目標年月

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
道の駅つるた「地域特産物直売所」の利用者数(人)	373,213	0	10,500	15,000
道の駅つるた「地域特産物直売所」の販売額(千円)	132,631	0	5,000	5,000
観光客入込数(人)	441,811	0	12,500	17,500

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累計
道の駅つるた「地域特産物直売所」の利用者数(人)	19,000	21,500	66,000
道の駅つるた「地域特産物直売所」の販売額(千円)	10,000	10,000	30,000
観光客入込数(人)	22,500	25,500	78,000

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、3月末時点の KPI の達成状況を町企画観光課が取りまとめる。

【外部組織の参画者】

鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 199,686千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5ヵ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 鶴の里あるじゃ新商品開発事業

事業概要：CAS 冷凍設備を活用した新商品開発を行うために、鶴の里あるじゃ担当職員の技術研修を行うもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町

事業期間：平成29年度～平成33年度

(2) 鶴の里あるじゃ販路拡大事業

事業概要：CAS 冷凍設備を活用して開発された新商品や既存商品の販路拡大のために、販売促進イベントを行うもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町

事業期間：平成29年度～平成33年度

(3) 農産物販路開拓事業

事業概要：町特産品のスチューベンぶどうの販路が少ない東海以西の販路開拓のために、行政・生産者・JA・市場関係者と一緒にトップセールスを行うもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町  
事業期間：平成 28 年度～平成 33 年度

(4) 観光プロモーション事業

事業概要：首都圏における町の認知度や訪問希望者向上のために、観光PRイベントや特産品の販売を行うもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町  
事業期間：平成 28 年度～平成 33 年度

(5) 観光ガイド配置事業

事業概要：JR陸奥鶴田駅駅舎、町歴史文化伝承館、道の駅つるたに観光ガイドを配置し、観光客の案内やお土産品等の委託販売を行うもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町  
事業期間：平成 28 年度～平成 33 年度

(6) 観光客二次交通助成事業

事業概要：JR陸奥鶴田駅を利用して「鶴の舞橋」を訪れる観光客が二次交通手段としてタクシーを利用した場合、お客様の負担を片道1台1,000円とし、タクシー料金の差額をタクシー会社に補助するもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町  
事業期間：平成 28 年度～平成 33 年度

(7) 道路案内標識・看板作成設置事業

事業概要：町の観光施設等を自動車等で訪れる観光客のため、国道・県道等の幹線道路に「鶴の舞橋」案内看板を設置し、安心して来町できる環境づくりを提供するもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町  
事業期間：平成 28 年度～平成 33 年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

## 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

### 【検証方法】

毎年度、3月末時点の KPI の達成状況を町企画観光課が取りまとめる。

### 【外部組織の参画者】

鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

## 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 増加分 (1年目)	平成29年度 増加分 (2年目)	平成30年度 増加分 (3年目)
道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」施設全体の販売額(千円)	434,033	0	5,000	15,000
鶴田産原材料購入数量(kg)	55,152	0	1,500	4,000
新商品開発数(個)	0	0	2	3
道の駅つるた「地域特産物直売所」の利用者数(人)	373,213	0	0	10,500
道の駅つるた「地域特産物直売所」の販売額(千円)	132,631	0	0	5,000
観光客入込数(人)	441,811	0	0	12,500

	平成31年度 増加分 (4年目)	平成32年度 増加分 (5年目)	平成33年度 増加分 (6年目)	KPI増加分の 累計
道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」施設全	30,000	45,000	5,000	100,000

体の販売額（千円）				
鶴田産原材料購入数量（kg）	7,000	10,000	1,000	23,500
新商品開発数（個）	5	5	5	20
道の駅つるた「地域特産物直売所」の利用者数（人）	15,000	19,000	21,500	66,000
道の駅つるた「地域特産物直売所」の販売額（千円）	5,000	10,000	10,000	30,000
観光客入込数（人）	17,500	22,500	25,500	78,000

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

毎年度、3月末時点の KPI の達成状況を町企画観光課が取りまとめて、鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。また、必要に応じて鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は速やかに町ホームページで公表する。